

第4号

令和7年11月28日

庄和すずらん幼稚園

園長 戸田 千里

保育随想

★ イメージの世界

園庭のいちょうやけやきの葉が真っ黄色に色づき、落ち葉のじゅうたんの中で、無心に葉っぱを拾い集めたり、葉っぱをブーケのような形にして楽しんだり、子ども達は晩秋から初冬にかけての自然界からの贈り物を思う存分受け取っています。

大人の世界でよく使われる言葉として『イメージを膨らませる』があります。いろいろな事象を見聞して、自身の経験と重ね合わせ、そこから新たな世界観を想像していく…といったところでしょうか？自身の心や頭の中で膨らませたものを次にアウトプットできるかどうかというと、そこに難しさを感じたりするのは私だけでしょうか？アウトプットの表現方法は人それぞれで、卓上でできてしまうこともあれば、全身を使って表現する、あるいは感覚で動くということもあるかもしれませんね。

では子ども達の世界ではどうでしょうか。まだまだ人生経験が少ない子ども達に『イメージを膨らませる』ということは少しハードルが高いように思っていました。先日ある年少組の男児が「先生、見て！クジラを描いたよ！」と、園庭に枝で描いたクジラの絵を得意そうに見せてくれたのです。それを担任に伝えると、その男児はお部屋の画用紙の上では、手が止まってしまって何かを描くということに少し抵抗があるという話でした。思い返せば、あまり絵を描くことが得意ではなかった私が、道路や神社の土の上などに石や枝等で大きく描くときには何の抵抗もなかったと記憶しています。小さなキャンバスより大きなキャンバスに全身を使って表現することで解き放たれた感じがするのかもしれません。そこには「正解」もないですね。先の男児はクジラは大きいというイメージがあったのかもしれません。それをそのまま表現できたことが嬉しかったのでしょう。子ども達の生活の中で、子ども達なりのイメージがあり、それをどう表現したり膨らませたりするのかは、まさに生活そのものに影響されるのではないかと思います。

子ども達を取り巻く環境はもとより、家族や先生や友達の言動そのものも、子ども達の世界観に大きく影響していくことだと思います。イメージとは逆の『現実』に対しては、コメントしやすいのですが、それぞれが持っているイメージを共有することは、時に難しく感じます。その分共有できた時の喜びは倍増します。このすずらん幼稚園で、子ども達がどんなイメージの世界を作り上げていくのかが、私はとても楽しみで、喜びでもあります。

一週間後には発表会があります。各学年でそれぞれの発達に応じた発表となりますが、まさに担任と子ども達が、いかにイメージの共有ができるか、それをいかに舞台で表現できるか！紆余曲折…悩みや苦悩…先生達も一筋縄ではいきません。『イメージの世界の共有』というハードルを乗り越えて、必ずと言っていいほど生じる歓び（感動に近い）をイメージしながら、皆がそこに向かっています。皆が幸せな気持ちになればいいなと思います。

幸せな気持ちになれる日々の生活を、イメージしてみてはいかがでしょうか。